

幾何入門 演習問題 13 (2012年7月19日)

担当：境 圭一

1. (1)  $\Omega \subset \mathbb{R}^3$  とし,  $f: \Omega \rightarrow \mathbb{R}$  を  $C^\infty$  級関数とする.  $\text{rot}(\text{grad}(f)) = \mathbf{0}$  を示せ.  
 (2)  $\mathbf{V}: \Omega \rightarrow \mathbb{R}^3$  をベクトル場とする.  $\text{div}(\text{rot} \mathbf{V}) = 0$  を示せ.
2. 次のベクトル場  $\mathbf{V}: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  のうち,  $\mathbf{V} = \text{grad}(f)$  の形になるものはどれか (ヒント:  $\mathbb{R}^3$  が単連結であることから,  $\text{rot} \mathbf{V} = \mathbf{0}$  かどうかを調べればよい)
  - (1)  $\mathbf{V}(x, y, z) = (x, y, z)$
  - (2)  $\mathbf{V}(x, y, z) = (F(x), G(y), H(z))$ , ただし  $F, G, H$  は一変数関数
  - (3)  $\mathbf{V}(x, y, z) = (y, z, x)$
  - (4)  $\mathbf{V}(x, y, z) = (2x + y - z, x - y - 3z, -x - 3y + 4z)$
3. (教科書の例 2.38)  $S$  を閉曲面とするととき,  $\int_S \text{rot} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S} = 0$  を示せ.
4. (教科書の系 2.40)  $S_1, S_2$  を向きをついた境界つき曲面とし, 境界のみで交わるとする:  $S_1 \cap S_2 = \partial S_1 = \partial S_2 (= L$  とおく).  $i = 1, 2$  に対し,  $S_i$  の向きから定まる  $\partial S_i$  の向きを考えると,  $L$  に二つの向きが入ることになる. ここでは, 二つの向きが一致するように  $S_i$  に向きが定まっているとする.
  - (1) あるベクトル場  $\mathbf{V}: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  を使って  $\mathbf{W} = \text{rot} \mathbf{V}$  と表されるような  $\mathbf{W}$  を考える. このとき Stokes の定理を使って  $\int_{S_1} \mathbf{W} \cdot d\mathbf{S} = \int_{S_2} \mathbf{W} \cdot d\mathbf{S}$  を示せ.
  - (2)  $i = 1, 2$  に対し,  $S_i$  の向きを定める法ベクトル場を  $\mathbf{n}_i: S_i \rightarrow \mathbb{R}^3$  とする.  $p \in L$  に対し,  $\mathbf{n}_1(p) = -\mathbf{n}_2(p)$  であることを示せ.
  - (3) 和集合  $S := S_1 \cup S_2$  が滑らかな閉曲面になるとする.  $\mathbf{n}: S \rightarrow \mathbb{R}^3$  を

$$\mathbf{n}(q) := \begin{cases} \mathbf{n}_1(q) & q \in S_1 \\ -\mathbf{n}_2(q) & q \in S_2 \end{cases}$$

で定めると, (2) より  $\mathbf{n}$  は連続になり,  $S$  の向きを定める.  $\text{div} \mathbf{W} = 0$  が成り立つとき ( $\mathbf{W} = \text{rot} \mathbf{V}$  は仮定しない),  $S$  に対し Gauss の発散定理を使って (1) と同様の等式を示せ.

レポート問題 13 (7/26 の講義開始時まで提出してください) 名前を忘れず書くこと

$S := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z \geq 0\}$  とする. ベクトル場  $\mathbf{V}(x, y, z) := (y(1-z), x(z-1), xyz)$  に対し,  $\int_S \text{rot} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$  を計算せよ.

(定義通りに計算するのは大変だが, Stokes の定理を使えば計算量は少なく済む)